

道教組

2019年4月1日発行

DOKYOSO NEWS VOL.541

教職員とその家族を守る
全教自動車保険

5つの特徴

- ①無事故割引を引き上げます
- ②団体扱い割引を10%に拡大
- ③家族の車もまとめるとさらに割引
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

有限会社 川上企画

(道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78

TEL:0120-222-789 FAX:011-218-2472

……道教組第32回定期大会開催……

職場と地域で「要求の多数派」をつくるとりくみの前進を



3月9〜10日に、道教組定期大会が開催されました。1日目の集中討論を含めて、今大会の討論の中心は、道教組の組織・運動をどう発展させていくかということでした。

大会では、道労連三上議長、全教檀原書記次長、道高教組尾張委員長、道退教渡部会長が来賓としてあいさつしました。また、指定討論として、子どもセンター原田相談員と道教組共済会小西書記が発言に立ちました。

熱い熱い討論の結果、第7号議案を除き採択され、継続審議となった第7号議案については、道教組運動発展の展望とあわせ、これからも討論を重ねていくことが確認されました。

川村委員長あいさつ 「道教組らしさを前面に 3つの課題」

○「教え子を再び戦場へ送らない」の決意を一層強く結ぼう

私たちの教え子を戦場に送り出す国にするのか、平和のうちにも暮らし続けることのできる国にするのか、改憲をめぐる動きが風雲急を告げています。市民の立場であることの重みを心まえ、教え子を再び戦場へ送ることのない政治の実現を目指しましょう。



○教職員の生活と権利擁護の課題を「子どもが主人公の学校づくり」へつなげよう

学校は、私たちが働く場であるとともに、子ども達を人的に成長させるという国民的実践の場でもあります。ですから、私たちの労働条件は子ども達の教育条件の重要な一つです。その改善には教育・教員を取り巻く人たちの合意こそが不可欠であり、私たちが学校づくりの基本としてきたことです。様々なレベルで合意を重ねる努力が、子どもが主人公の学校づくりにも、教職員の生活と権利を守ることにもつながるのです。

○組織づくりの課題に新たな視点を

今まで、道教組という家族と道高教組という家族はとても近い友人でした。それが一つのシェアハウスとともに暮らすということには、『かたち』が変わることになります。その時、それぞれの家族が「うちの家族って、どんな家族だったか」と振り返ること、道教組運動の原点とその財産を今一度しっかり学び直し見つめることが、とても重要なことです。

○おわりに

道教組は、様々に厳しさを抱えています。でも、私たちの歩みは、王道を進んでいるのだという気概と自覚を持って進んでいくことではありませぬか。

道教組運動について、19本の活発な討論

山本佳奈子特別代議員（女性部）

総会と学習会を実施。女性部アンケータには2008名の声があり、ハラスメントなどの悩みが寄せられた。組合で連携を取りながら、1人をみんなで大事にしたい。



鈴木健代議員（全釧路）

職場で超勤の問題が共通話題になってきた。「要求の多数派」は要求の自覚から。大会後に学習会を実施。組合員が共通理解をどう作るかが大事。保育と教育の会とも連携している。



山上裕和代議員（根室）

事務仕事が多く「不夜城」と言われるほど。分掌会議は休憩時間に食い込む。特支の打合せの設定が難しい。同僚とのグチが対話となり、要求になる。この対話を増やしたい。



大石準代議員（檜山）

未配置について、4月からの代替教員がない。管内各地でも同様の状況があるようだ。超勤も深刻で、自分の生活を後回しにしてしまう。それによる問題もあった。



中村哲也代議員（上川）

チャレンジテストの設問に大問題。正解者がほばいない。学習のシステムとも合わない。「点数向上」の

ためのテクニクだけを身につけさせようとする道教委の姿勢は疑問。

櫻井貴幸代議員（空知）

英語のチャレンジテストが始まったが設問に問題がある。全国学テの英語導入は負担が大きい。小学校英語の教科化にも危機感がある。空知合研では学テ体制下の実態を交流した。



河上創代議員（石狩札幌）

9月の震災後の時数確保で毎日6時間に。高学年の先生は大変で子どももイライラ。校長が示すPTA役員選別の改善策も、実効性に疑問があり、自分でもとりくみを工夫したい。



吉田圭子代議員（札幌）

「にーごープロジェクト」対応のために職員室が空に。進度を決め、機械的な振り分け。統廃合も住民の意見の間かず、本質は教育費カットだ。広く知らせ、地域と共同したい。



工藤恒代議員（宗谷）

今までの組合活動22年を振り返って、入ってよかった。支部では執行部を11年経験し、いろいろと学べた。人事は学校づくりの視点が大切。組合のよさを若い人に伝えたい。



中里明雄代議員（胆振）

組合をどう見せて仲間を増やすか。「①学ぶ」「②働く」「③楽しく」「④よかったな」の実感。若者は

「等価交換」。聞きたい。「楽しそう」の活動で組合を強くたくましくしたい。

山本仁史代議員（網走）

「したいことを生きていく」ただし、独善的にならないように。ワカサギ釣りの企画が楽しかった。みんなが「やろう」「いいね」と作っていく時間を道教組でも大事にしたい。



中村徹代議員（上川）

たたい方には工夫が必要。「とりくむ」と「たたかう」はやはり違う。組合加入はいざという時の「保険」。自分たちが何かしら関わってよくしていく意識を。訴え方は大事。



遠藤玄代議員（宗谷）

約20名の拡大。今年度は過年度が多かった。幌延支部の粘り強い声かけの成果。今年度は「幌延元年」。共済アドバイザー」として加入促進した。災害給付も拡大につながった。



釜范圭代議員（全釧路）

全釧路の組織づくりに、支部体制を本部に一本化。生権部を立ち上げ、いずれかの部に全員が所属することで、つながりが見えるように。ボトムアップのとりくみをすすめたい。



新田智子代議員（渡島）

組織減で、これからどうなるか不安もある。今後の展望を話すことを大切にしたい。組合の存在意

義が薄らがないように近くに組合員がいて、事務所に常人がいることが大事。

國保いずみ特別代議員（養教部）

定数改善の署名に力を入れた。災害避難所について、生きるの希望があったこそ。今の子どもたちは、不登校が増え、希望が著しく低い。教育こそ、子どもの希望を。



永島敦史特別代議員（事務職員部）

全国事務研は約100名の参加で大成功。PTA行事は割り振り変更の対象にならない。事務の専門性を生かしてとりくんでいる。全国常任となり、全国のつながりを生かしたい。



田中豊一特別代議員（障教部）

1月の全国学習交流集会（仙台）に過去最多の8名が参加した。議案書方針の11項目を具体的に進めるためにも、アンケータへの協力を。5月の総会は、学ぶ総会にしたい。



富樫輝特別代議員（青年部）

秋に、教職を辞めようと思ったが、得意なことでも生きていくと考えた。答えは誰かに教えてもらうのではなく、自分の中にある。理不尽さ、スタンダードに落ち込むが、好きなことを見るように。子どもに救われてきた。



○討論のまとめ

1日目の集中討論とともに、組織・運動の展望が議論の中心。不安感も含め、率直な討論がなされた。やらされ感、負担感のとりくみではなく、ボトムアップの主体的な運動づくりを。

「要求の多数派」づくりは「要求の自覚から」との発言や、グチから対話し、要求につなげていくとりのくみの発言で、丁寧なつながりづくりの重要性が確認された。

「学力向上」のはめられ感、管理統制も進み、教職員の生きづらさ、困難さは広がっているが、「子どもに救われた」発言のように、子どもとのつながり、保護者や地域とのつながりの中に、教職員の主体性が発揮できる。

組合の学習を大切に、実践を学び合い、組合そのものを学び合い、道教組運動をさらに発展させよう。

○選出された新役員

- 執行委員長 川村安浩（空知教組）
- 副執行委員長 新保裕（道教組）
- 古川晃男（全釧路）
- 内藤修司（宗谷教組）
- 書記長 齋藤鉄也（全釧路）
- 書記次長 安里朗（檜山教組）
- 遠藤玄（宗谷教組）
- 執行委員 中山裕一（根室教組）
- 榎本康展（全教石狩札幌）
- 監査委員 中村賢明（上川教組）
- 渋谷美和子（全教いぶり）